

新型コロナウイルス禍における沖縄観光—2.
観光客と観光業者の実態調査

Okinawa Tourism During the COVID-19 Period part2
Field Study of Tourists and Okinawa Tourism Workers

| | | | |
|------------------|-------------|-------------|--------------|
| 脇本 忍 | 楊 琿屹 | 郭 絢麗 | 周 曉妍 |
| Wakimoto Shinobu | Yang Junyi | Guo Xuanli | Zhou Xiaoyan |
| 聖泉大学人間学部 | 聖泉大学人間学部生 | 聖泉大学人間学部生 | 聖泉大学人間学部生 |

要 約

新型コロナウイルス感染が、世界的レベルで蔓延し観光業界は多大な打撃を被った。このコロナ禍に、沖縄県那覇市と国頭郡今帰仁村を訪問している県外からの旅行者と地元の観光業者を対象とし、コロナ禍での日常生活の影響とコロナ渦での沖縄訪問について聞き取り調査を実施した。感染予防と余暇享受について多様な見解が集約された。なお、本研究は、「新型コロナウイルス禍における沖縄観光—1. 中国人の観光動機」と連関する調査である。

キーワード：新型コロナウイルス、沖縄観光客、沖縄観光業者

問 題

沖縄県は2020年9月に、新型コロナウイルスの感染拡大で2020年度の経済損失額は6,482億円で、2017年度の県内総生産額の14~15%もの金額に相当すると試算している。また、旅行業界最大企業のJTBが11月に実施した2021年3月までの年間グループ全体の業績予想では、経常損益が過去最大の1,000億円の赤字になると発表した。同じく大手の近畿日本ツーリストでは、希望退職者募集や2022年度新卒採用停止などで、約7,000人の社員を、2024年度末までに3分の2に削減する方針を明らかにしている。政府は、感染拡大防止策として、自治体が飲食店に営業時間の短縮を要請し、協力金を支

払う地方創生臨時交付金の1兆5,000億円拡充や、医療機関向けの緊急包括支援交付金の増額の対策を講じているものの、旅行業者の支援策ともいえるGo Toキャンペーンには問題点が噴出して今後は無策になりかねないのが現状だ。観光庁は2017年から、日本版DMO (Destination Management Organization)を設置した。観光物件や地域独自の自然や食文化、芸術・芸能など地域にある観光資源と関連し、地域と協同して観光地域作り後押しし、地域経済を活性化する施策である。しかし、コロナ渦の影響で今や打つ手がない状況であるといえるだろう。NHKが第2波発生期ともいわれる時期と重複する2020年8月8日～10日に全国18歳以上を対象にコンピューターで無作為に発生させた固定電話と携帯電話の番号に電話をかけるRDD法による世論調査を行った。有効回答者数1,286人から、「大いに不安を感じる」40%・「ある程度不安を感じる」47%・「あまり不安は感じない」9%・「まったく不安は感じない」2%という結果が得られた。この結果からは、コロナ感染についてかなりの個人差があることが見られ、行動にも差異があることが予測される。

2020年7月に、沖縄県文化観光スポーツ部は、6月の観光客数が前年同月比83.4%減の14万4,100人と発表した。外国人観光客は4月からは皆無であり、6月の観光客数としては減少数と減少率が前年度比過去最高となっている。外国人観光客に依存する観光業のありかたの是非については議論を譲るとしても、沖縄は、地政学的視点からは今後もインバウンドを意識せざるを得ない観光地だといえるだろう。脇本(2014)によると沖縄に関するイメージは、美ら海主成分・スリル主成分・レジャー主成分・琉球文化主成分の4つの成分で構成されていることが明らかにされている。このことから、多様な魅力がある沖縄には様々なタイプの旅行者がそれぞれの動機で訪れることが推察される。このことから本研究では、沖縄の観光関連事業者およびコロナ渦に沖縄観光に訪れる旅行者の実態についての調査を実施する。JTB総合研究所(2020)が実施した渡航自粛や外出制限が緩和された際の旅行に行く心境についての調査では、「しばらく行きたくない」の回答は、海外旅行と大都市への旅行が多数回答を占め、「すぐ旅行をしたい」の回答は、自然が多い地域への旅行が最も多く、9月現在においてGo Toキャンペーンを促進する日本政府と沖縄県からの沖縄観光メッセージには、両者にズレと温度差があることは否めない。沖縄現地の宿泊業・アミューズメント関連業・飲食業など観光関連業に従事する現状を調

査する。

方 法

2020年8月20日～27日に沖縄県那覇市と国頭群今帰仁村にて、沖縄県外からの観光客と沖縄県内の観光事業従事者を対象として、コロナ禍における観光旅行および観光業の現状についてインタビュー調査を実施した。インタビューは半構造型形式を採用し文章化した。なお、沖縄では県知事による沖縄緊急事態宣言が8月1日から29日まで発令されている。

結 果

沖縄旅行者と観光事業従事者へのインタビュー

(Mさん 男性 45才 東京都渋谷区在住)

(Interviewer) コロナの影響で、仕事やプライベートについて変わったこと/困ったこと?

仕事については、今まではずっと会社に出社出勤して仕事をしているのが普通だけど、コロナが流行り始めて4月途中から、今も引き続き在宅勤務、家で仕事することを推奨して進めている会社として、週2回ぐらいに会社に行き、週3回は家で仕事をする。働く場所が変わった、そもそも働く日にちも週5回働いていたのを、週3とか、週4とか、平均したら、このぐらい。増えた給料をもらいながら、休んでくださいというのが増えている。仕事がないから。今は給料は変わらない、なぜかという、国が休業補償の給付金を出してくれるので、従業員には給料をそのまま払える。休業補償をもらって休んだりもしている。会議とかそういうものも、今までは顔を付き合っていて、一つの会議室とか、やっていたけどオンラインで、チームスっていうのを使ってみんなで帰りにするようになった。研修練習も集まってやっていたものを自分の空いた時間にオンデマンドで見ても勉強してくださいという形に変わった。研修は新入生の、新入社員の教育研修も、今までは、泊まりで2週間泊まり込みだけと、全部在宅でオンデマンドの研修集合の話を聞いて自分で自己学習するっていうものになった。困ったことは、ボーナス、今年の12月冬と来年の6月が、ちょっと難しい、なくなるかな。

(Interviewer) なぜこの時期に沖縄に来ましたか?

国民が旅行しようっていうマインドにまだなりきっていない。まだ決定できていない、こんな時になんで沖縄に来たんだっていうのは、こんな時だからこそ、コロナが例えば10月に落ち着きますっていうんだったら我慢できるけど、来年の3月になっても5月になっても、コロナがなくなるわけじゃないし、薬ができる保証もないし、となると経済が全然ストップするし、逢いたい人に会えなかったりすることを考えたら、最上限の注意払って行くと、その意義があるじゃないかなと思う。

行かないのは、簡単なんけど。自分が我慢したらいいから。でも、行って感染拡大しないようにするのがもっといいんじゃないかな。それで、別に政府がいったからとか、親がいったからとか、誰かがいってる場合じゃなくて、自分自身が皆考えて行動する責任持つ、それでいいと思う。大切な人に感染したら後悔しまくる、でも会いに行かなかったら元気なうちに会いたいのも、全部自己責任で判断して行動するふうにしなないとゴールが見えていないで、その行動でいい。

(Tさん 女性 40才 東京都新宿区在住)

(Interviewer) コロナの影響で、仕事やプライベートについて変わったこと/困ったこと?

仕事は、食品の営業メーカーなんですけど営業先は医療機関とか、高齢者施設、老人ホームが中心なので、以前はアポイントがなくても、突然訪問しても。仕事のやり方はコロナの後は、必ずやっぱりこういう医療機関と高齢者施設のリスクが高いので、得意先の許可はないとそのアポイントがないと営業に行けなくなりました。今は来ていいですよってしてくれることが少なくなっているんで、営業のやり方が訪問して対面でやるだけではなくて、電話とかメールとか、郵送で送ったりとか、後は環境が整ってればとか、zoomとかそういうオンラインでやるような形になりました。

私たちは営業なので、そんなにその会社に出社している時間が短いので、なんですけど、中で仕事をする人たち、私たち会社で、中の人たちは、出勤率が50パーセントっていう形にしているんで、在宅勤務でやっている人もいます。研修とか会議とか、オンラインになったので、1つの会議室に集まって、やるっていうことはほとんどなくなって、新入社員のときに、入ってすぐに引越をして、自分の配属先に引越をして研修は受けられなかったんで、着任したのが7月1日だったから4、5、6月は3ヶ月間ずっと自宅で研修を受けていました。困ったことといえば…、あの、なんでもいいですか？やっぱりこう、あの、私たちが売っている商品は実際に目で見てもらって、例えば作り方とかが、会ってその作り方をこういうふうにするんですよっていうのを実際に目で見てもらって、味が結構大事だから、実際に試食してもらって美味しいとかそういう評価をもらって、じゃあ、美味しいから買いますよっていうことになることもあるので、それがこのコロナだから食べてもらったりとかできないから、電話で味の評価その場で聞けないとか実演して見てもらうっていうこともなかなか難しくなっているんで、それをリモートでその営業をかけるっていうのがなかなか難しい。

(Interviewer) なぜこの時期に沖縄に来ましたか？

友人に誘われて、ここに来ました。

(Mさん 女性 50才 大阪府堺市在住)

(Interviewer) コロナの影響で、仕事やプライベートについて変わったこと/困ったこと？

小児科の処方が減った。つまり、子供の病気が劇的に減った。薬剤師として調剤薬局で働いている。結局、小児科の子どもの感染症が減ったから。

(Interviewer) 感染症？

風邪とか難しい現症が減った。外に出ないから、一緒に交わらなかつたかな。コロナの影響で stay home になったからです。

(Interviewer) これも良いことで、なんかコロナで子供たちがあまり病気がないです。

商売あがったり。

(Interviewer) とても新しいことですね。

新しい視点で、つまり人は外に出ないと、病気にならないっていうことです。

(Interviewer) 本当ですか？

家にいたらそうならない。でもお母さんがストレスになる。子供がずっと家にいるとお母さんが疲れ切っちゃう。

(Interviewer) じゃあ、なんか特に変わったことは？

理由は確かに説得力があると思います。だって老人は家にいるから、家の人は薬だけもらいにくる。お医者さんに行かなくて。

(Interviewer) たしかにバイ菌は、外に多いかな。

また、その老人たちが集まるっていうのが危ない、集まらなくなると病気は減る。だから介護で。医療は病気が激減した。

(Interviewer) じゃあ、特になんか増えたことは？例えば、うがい薬とか。

うがい薬はあの吉村さんってわかる。

(Interviewer) 大阪の知事。

そう、彼が言った瞬間にわずか数時間の間に 15 人ほど見知らぬ人がやってきた。その瞬間に市場からそのうがい薬が消えて天才効果がある。ものすごい勢い。

(Interviewer) やはりみんなが、彼がいっていることを聞きますね。

ただその意味がないと、そのすぐ後に。大変さはなかったけど。

(Interviewer) じゃあ、これはマスクと違うし、すぐ入荷できます。

いえいえ、まだ全然足りてない供給量ですよ。

(Interviewer) 今買えますか？

全然、買えない。

(Interviewer) なぜこの時期に沖縄に来ましたか。最後の質問です。これに関してなんか言いたいことで何でもいいです。

やっぱり「Go to travel」ですね。

(Interviewer) 国がいっている go to。

そうそう。

(Interviewer) 一番重要な理由で、一番強いですか。

そうじゃないです。やっぱり自分が行きたいのももちろんあって、そこに経済効果もあるから、毎年来ているからそういう意味で…。

(Mさん 女性 60才 大阪府堺市在住)

(Interviewer) コロナの影響で、仕事やプライベートについて変わったこと/困ったこと？

大きく変わったと思います。とても。英語教室の先生をしてるんですけども、新型コロナウイルスの影響がどういものかちょっとはつきりわからないので、とりあえず、まあいろいろ飛沫感染とか接触感染とかいわれてたので、授業の停滞が、やっぱりちょっと何人かの生徒を、テーブル形式のところ困んで、こちらが後列で、できるだけ。本部の教える方があるの。お母さんが子どもにお言葉をね、最初もう赤ちゃんに言葉を教えるように教えようというのがあるんですよ。だからまあ、子どもにタッチするとか、近づいてこう言葉がけするとかっていうね。自分の口の動きをしっかり目の前で見てもらうということ。それが売りというか、いいところだねっていうような指導方法なので。それが、ストップされてという、まあ、本部としては緊急事態宣言に即して地元の学校が休校になったじゃないですか。でも、一時も休校にしないといけないということがあったんですよ。やっぱり飛沫感染を防ぐためにこうマスクでは。飛沫だけ飛ばさないようにして、子どもたちは、ほとんどはテーブルで向き合って、お互いの顔を見ながらでレッスンするのが、ああ、いいねっていうレッスンをやりたいけども、やっぱり距離をとるために 1 個ずつ机を離して、学校の授業みたいな。人数は少ないですよ。あのまま第一条件みたいな感じで、まあ緊急事態宣言以降もレッスンを始めたんですけどね、だけど今までの本部の良さはこうですよっていうのが大きいポイントでできなくなっちゃった。というところが大きな変化ですよ。

(Interviewer) たしかに。

そうですね。あとは、やはりその。外食とか飲み会とか、まあ結構好きでお知り合いの方とこうやったけども、今は親しい人たちではないと。

(Interviewer) ちょっと心配ですか？

そうそう、たくさん的人数でワイワイというのは絶対できなくなっちゃってるから、そうですね小さなグループでのお食事は

オッケーやけども。そういうのができなくなったなあって。あとは、子供とか自分のお親とか離れて住んでる。そうした人たちは、会えなかったんですね。お母ちゃん、自分の子供、家族とは会ってますけども、自分の実家ですよ。自分の親の世代とはやっぱり距離を置いてますねえ。そこはそこであの、私のお兄さんが私の母親と住んでいるんですよ。でも、そのグループと自分たちが絡んで会いに行くってことはなくなりましたね。コロナの間はやっぱりやめとこうか。自分の親との接触の機会がなくなっちゃったって、電話だけになっているからそれも大きいかなあと思います。

(Interviewer) やはり家族のために、いろいろ犠牲しなきゃ。

そうですね、いろんなことが犠牲になりますよね。家族間でも普段生活している家族は普通ですけどね、あのコロナだからといって、家の中でマスクするわけではないので、でも普段生活を一緒にしない家族いませんが。そういう人たちもポカーンと関係が。親はネットも何もしないので、接触することができなくなっただけのありますよね。

(Interviewer) でも今は、ネット一応がありますが。それは、電話とかリモートとか。

自分の親は、リモートはしないんですよ。スツキャブね。やればいいねんけど。

(Interviewer) 顔を直接に見るほかがいい。

そうですね。思います。この夏のお盆に会うつもりです。

(Interviewer) わかります。

お盆は、自分が親を頂点として自分の兄弟とかと、つまりが毎年行われるんですけど、それは今年はキャンセルするって。

(Interviewer) それは大変ですね。

全然変わった感じですよ。辛抱やなあって感じですよ。来年はできるって信じたいけど、ちょっとまだ分からないしね。

(Interviewer) ウィルスに捕まらないようにしなければ。なぜこの時期に沖縄に来ましたか？

最初、私たちがやっぱり沖縄の知事さんが、とりあえず 8 月

15 日まで緊急事態宣言をされたんですけども、それを 8 月末まで延長するっていうアナウンスがあり、もうやめときましょかあとグループの人たちに連絡が取れたんですよ。ただね毎年、座間味に来たらお世話になる人たちでいるんじゃないですか。私たちは 7 年目なんです。毎年お世話になる人に、とりあえずまあ、アクティビティの予約とか宿の予約とかしてたので、それをキャンセルするにもキャンセルしますだけやからね。長いお話を電話でしたんですよ、その時にね。

(Interviewer) やっぱり地元の人たちは、来て欲しいですね。

そうそう！そんな話があったんですよ。こっちがどうしても座間味とか沖縄とかやっぱり都会に比べて、医療施設が大きく受け入れが大きいじゃない。だから、心配でそっち行ってもしもの事があったら怖いから、行かない思いもあったけど、それは仕方ないからキャンセルされても仕方ないですけども、そうじゃなくて、健康にいられて今の時期やマスクはしようねとか、ちょっと手洗いはしようねと思ってくれるんやったら、ぜひ来てくださっていう話があったんですよ。やっぱりみんなも寂しいな。



Figure3 南城市佐敷の感染防止のマスクをつけたシーサー

(Interviewer) お客さんが全然こないですね。

そうですね。もう死活問題だと思うんですよ。この座間味。県外からの人が来ないと、その現収入、収入がなくなる分を、県側とか国側が補償するのじゃないと思うんですよ。まあどこもそうやと思うんですけども、保証は補填されるわけではないので。

(Interviewer) そうですね。

座間味にしたら、冬はほんまにあの、お仕事って観光業はほとんどご収益上がらない。この時期にしか収益がないのに、もう来ないで来ないでっていつてられないみたい。だからコロナはこうやったら絶対防げる。でもできる限りの対策を練って、経済活動をしたいという意向に合ったので、私たちもその意見はすごく、私も商売をする人間としてわかるし、できるだけのことをして乗り換え生かしましょうって。毎年のことをいけないうつはすごく寂しいわけだから。だからそれをちよつとでも可能性を探って実現したいっていうのはすごく強く、お話しすればお話しするほどは思ったので、じゃあ、頑張っていきましょうということですよ。

(Interviewer) 最初はポジティブな考えの方がいいですね。

そうですね。コロナに関して思うことなんですけどね。世界的にはPCR検査をたくさんしているという話があるんじゃないですか。でもPCR検査で一旦陽性で陰性だったから、じゃあ何をしても大丈夫かっていう保証はないですよって話じゃないですか。陰性といえども、じつは陽性どとか、すぐに陽性になっちゃうとか。PCRの検査の絶対的な意味がない、3万くらいするよ。

(Interviewer) それは高いですね。

高い。それをね、もうホンマに一日、日本全国でいうと何万件もやってるわけだから、それはもったいないでしょ。そんなも意味ないやん、ちよつとでもこの具合が悪くなったよっていう人のために、そこにお金を強化して、そういうふうな人は衛生状態に気をつけて普通に経済活動をしましょうという形でいいんじゃないかなと思いますよ。

(Interviewer) それも確かに良いアドバイスだと思います。

(Mさん 男性 63才 大阪府堺市在住)

(Interviewer) コロナの影響で、仕事やプライベートについて変わったこと/困ったこと？

家の横にスカッシュコートを作って、そこでレンタルコートの仕事をしています。そこにお客さんが来て、レンタルコートの料金をもらってます。

(Interviewer) はい。わかりました。何か、お仕事についてはなんか。コロナ前と比べたら？

4月8日に。日本政府が緊急事態宣言の発令をしました。それで営業をやめました。

(Interviewer) すべてストップしましたか。

まったくやめました。それで、5月22日の緊急事態宣言解除というところまでの1ヶ月ちよつとは、全く営業を中止しました。収入はゼロです、その時。

(Interviewer) それは大変でしたね。

やめるようにいったんでやめました。5月23日に緊急事態宣言が解除になったので営業を始めました。でも、コロナの予防をしないといけないので、窓を開けて、換気、エアコンはオンにしながら窓を開けてとかいろいろ工夫というか、手間をかけました。対策のために。でもお客さんは1ヶ月間やってないのでやりたいやりたいとたくさん来てくれています。以前のように、お客様たくさん来てるけど、あの換気部屋とかいろいろ気をつけながらやっています。それは消毒などの対策をしっかりとっています。以前より厳しく気を使ってやっています。週に1回大学にその運動のフィジカルエデュケーションの先生をしに行っています。それが4月から始まる予定だったんですけど、やっと6月から始まりました。体育の授業の内容ですが、接触しないようしな

62 新型コロナウイルス禍における沖縄観光ー2.

ればなりません。ソーシャルディスタンスを保つために、テニス、バドミントン、卓球はOK。バスケットボール、ダンス、サッカーダメというふうなことで、今、授業を考えるのにいろいろ工夫をしています。

(Interviewer) それは大変ですね。もしそれをやりたいならできなくてかわいそうですね。

だから我慢してたよと。そういう生徒には、学生には。

(Interviewer) じゃあ今はもう週2回普通にやっています？特に内容が変わったけど。

内容が変わったけど、6月からはやっています。ほんとうは4月からでも6月からやっています。

(Interviewer) じゃあ、夏休みも？

夏休み短いみたい。学生は。

(Interviewer) なぜこの時期に沖縄に来ましたか？

毎年、8年前から友人にここ連れて来てもらって1年1回のいちばん楽しい、1年の中でいちばん良い日です。沖縄なかなかい場所だと思う。それで今年是这样いコロナのことがあったので、悩みましたね。2ヶ月前から悩みました。どうしようかって。でも来ました。来たら、この知ってるショップのマスターとかに、来てくれてありがとうっていってくれました。まあそれが正しいかどうかわかりませんが、今日は来てよかったなと思っています。ただ感染予防とか、迷惑をかけないようにしたいと思います。

(Hさん 女性 47才 沖縄県今帰仁村在住 宿泊施設経営)

(Interviewer) コロナの影響で、仕事やプライベートについて変わったこと/困ったこと？

だけど、別に終息が全てじゃないし、来れなくても期待で思ってくれてるので伝わってるんで、だからあの・・・私たちにできることは健康で、今毎朝ヨガをやってるんです。で、うちのストハウスをずっと保つことが大事なんじゃないかなって。

(Interviewer) 素晴らしい。

コロナのなにかがあるからで、上がり下がり気をせずにずっと同じテンションでいつもと同じゲストハウスであり続けることを私たちにプライドなので、まだ健康であること。私たちが落ち込んでたり、コロナ出たら、それから逃れてみんな来てるのに、何か？ここにまで来て、コロナごときにあんまり落ち込ませるような空気が作りたくないですね。

(Interviewer) ああ、そうですね。

まず同じゲストハウスで。

(Interviewer) 前向きの方がいいです。

そうそう。

(Interviewer) はい。じゃあ第2番目の質問は、それはあの一。ゲストハウスのオーナーとして、今コロナの時期にここに来ているそのお客さんたちをどう思いますか？

そのコロナでも来ているお客さんに関して、コロナ騒ぎでも来てるお客さんに対して、やっぱり癒しを求めて来てると思うから、先と同じ言葉になっちゃうんだけど。

(Interviewer) 癒し。

癒しとか、後すぐに悩んできてくると思うんです。緊急事態宣言も出たし、その中で来るっていうことほんとうに来ていいのかなって。でもその中で、もうチケット取っちゃったしとか、それでも来てみたら、若い女の子が来てすぐ悩んできました。コロナできて良かったのかなって、ずっとやっぱり家の中で引きこもってて、やっと「Go To キャンペーン」が始まって、行けるならやった。まだ、来ちゃダメみたいなノリになっちゃたから、すぐに悩んだんだけど、やっぱり来てみた

らすごく楽しい友達もできたし、来て良かったですって喋りながら、泣きだしちゃって。ちょっと感極まって、だからみんなその困った思いを抱えて沖縄に来てるってことだから、来た人を大事にしなきゃなって思いました。みんなただ軽く来てただけじゃないから。

(Interviewer) そうですね。

困ったことがあったら、解決すれいまいと思ってます。例えばコロナでお客さんが減って、これからの暮らしをしようって思ったんで、うちはそこでシェアハウスに変えました。

(Interviewer) それは何ですか？

シェアハウスっていうのは、決まられた人たちだけ、そこで住むアパートみたいな。そうするといろんな人が出入りしないから、好んで毎朝検温もしているし、そうやって健康を保てるかなって。

部活動とかもあって、缶詰食品食べたりヨガやったり、常に健康であることを意識して、だから困ったから解決したのが、お金で困ったからシェアハウスで解決しました。コロナが、たいぶ騒ぎが大きかったときだけシェアハウスに変えて、また大丈夫ってなつてゲストハウスに戻しました。

(Interviewer) じゃあこれも乗り乗り越えました。それは良かったですね。

ありがとうございます。

(Interviewer) ありがとうございます。

今こういう状態です。

(Interviewer) これは何かコロナのせいで何か困ったことという感じですね。でも解決しましたね。

解決させました。困ったのは困った事は解決するためにあると思っています。

(Interviewer) はい。じゃあ、なかなかいい感じ他の人なんかちょっと違うそうで何か？みんなと一緒にその一緒に気持ちをなにか分かり合うとか、あの支えるとやっぱり違いますね。

心ももっと強い感じですね。ありがとう。メンタル強いです。

(Interviewer) ポジティブなエネルギーいっぱい、元気いっぱいですね。

ありがとうございます。やっぱり海のおかげか、もしも私もポジティブなんだとしたら、目の前がいつも美しくてを考えてることが、もうすぐ大潮だなと雨が降る中天气がどうだかっていって、考えていることが自然の方が多くて、あまり人間のことで自然の中で生きてるから、だからそうしてるとか、感情とかイライラは結構自然に消えてしまうので、それは私をポジティブにさせてもらえるかな。

(Bさん 男性 43才 沖縄県沖縄市在住 レジャー施設従事者)

(Interviewer) まず、このコロナのこんな時代になりますが、オープンされたのは5月とか？

5月25日です。ちょっとまあ、緊急事態宣言があったので、その後またオープンということです。

(Interviewer) ああ なるほど。お客さんはどうなっていますか？

今もまた、営業を続けているんですけども。

(Interviewer) やっぱり 大分減ったということね。

そうですね…

(Interviewer) ちなみに、観光客の方と地元の方と、どちらが多いですか？

64 新型コロナウイルス禍における沖縄観光－2.

やはり、この1ヶ月間というのは、夏休みに入るまでは、もう8割以上県民ですね。

(Interviewer) では、5月25日オープンされでも、ほとんどが観光客じゃなくて。

観光客はまぼゼロ、最初からです。

(Interviewer) そうですか。

皆沖縄のかたです。駐車しているクルマはレンタカーが多いですね。しかし、レンタカー店に聞いてみると県内の遠方から、クルマを持っていない若者たちがクルマを借りて那覇に来るお客さんが多いようです。

(Interviewer) では、沖縄のかたばかりがこの間に来ているわけですね。

はい。

(Interviewer) でも5月25日だったら、沖縄でコロナはまだこんなに出てませんね。

そうそう、ずっとゼロでした。

(Interviewer) ということとは、県外からの人がこなかったのは、自粛なのか、それとも旅行に興味がなくなったのか…

そうですね。一時期芸能人の方とかが沖縄に来て非難されて…世間というか一般の方も気にしちゃった。SNS にあげて叩かれて、そんな雰囲気になって、そうでなければまたぶん影響は少なかったと思います。

(Interviewer) 感染していなかった沖縄に来ることは悪いなという思いはありましたよ。こういう施設としては来てほしいというか、やっぱりやばいので来てほしくないというか…。

正直、当所は来てもらいたくないって、収まるまで ちょっと厳しくしていたかった。

(Interviewer) 経済を取るか、それとも感染を取るか。

そうですね

(Interviewer) あの時期ならコロナの怖さを予測できなかったのも、とにかく感染しない方がいいということですね。

そこですよね

(Interviewer) 美ら海水族館や首里城は閉館の状況なんですけども、美ら海さんにいけないという部分では、そういうこちらは資源性がすごいということですね。そういうポジションもちょっと考えられますね。

私たちは、ここはエンターテインメント性が優れていると思っています。空港も近いので気軽に来てほしい。コロナが収まれば、観光客のみなさんには旅行帰りに立ち寄ってほしいです。

(Interviewer) 個人的に困られたことはありますか。

お客様が来ないので先が読めない。ワクチンの開発ややはり、経営と関係することになりますね。現況は、目標の半分も達成できていない状態なので。

(Interviewer) ありがとうございます。

考 察

沖縄現地調査結果からは、以下のことがうかがわれた。観光客へのインタビュー結果、「国民が旅行しようっていうマインドにまだなりきっていない」「やっぱり自分がいきたいのももちろん」「やっぱりみんなも寂しいね」などに関連する言及が多く認められ、開始されたばかりの「Go To キャンペーン」についての発言もあった。国内における観光需要を喚起し、緊急事態宣言に伴う休業要請で疲弊した景気・経済を再興させることを目的と

した経済政策である。つまり、「行きたい」だけではなく「行ける」から沖縄観光ができるとも解釈できる。Crompton (1979) や Dann (1981) が指摘するように、観光旅行者のモチベーションも、観光動機を pull 要因（引き寄せ要因）と push 要因（後押し要因）の視点から検討すると、Go To キャンペーンは、特殊事情が生んだ push 要因といえるだろう。

沖縄来訪者の発言で、「(前略) …ただね毎年、座間味に来たらお世話になる人たちがいるじゃないですか。私たちは7年目なんです」や「毎年、8年前から友人にここ連れて来てもらって1年1回のいちばん楽しい、いちばん良い日です。それで今年はこのコロナのことがあったので悩みましたね。2ヶ月前から悩みました。どうしようかなってでも来ました」などと、コロナ禍とは関連なくリピーターという事実を明らかにしている。リピーターだからこそ、コロナ渦の特殊な社会的連帯感との間で意思決定がされている。つぎに、岡村・福重 (2007) は、旅行者は訪問回数が増えるにつれ、旅行の目的を変遷させていると述べていることから、リピーターは当然の行動として頑強な訪問動機が発生しているのかもしれない。「もう死活問題だと思うんですよ。この座間味」や「ここの知っているマリンショップのマスターに来てくれてあるがとうっていつてもらえました」という発言からは、地元の知人を助けに行きたいという援助行動も推察された。Shwartz (1992) は、人々の価値の動機づけタイプが「変化自由—変化抑制」と「自己高揚—自己超越」という2次元を中心として構成されることを指摘している。つまり、このコロナ渦に沖縄に行けば危ないという社会雰囲気があるものの、半ば確定された状況を打破するため、自分の行動を合理化にするために援助行動と地元の知人との関係強化という目的に帰属したと考えられる。

「新しい視点で、つまり人は外に出ないと病気にならないってことです」という発言については、不自由な現状を認知的不協和 (Festinger, 1957) し、楽観的にとらえているものの、「前みたいな日常を取り戻したい」「コロナの中で自分の力では仕方ない」という発言と矛盾する二重拘束 (Double bind) と受け取ることもできた。仕方がないということとは理解しつつ社会的連帯を示すことの重要性和、行使することの無形の強制力を感じていると推察できる。さらに、「逢いたい人に会えなかったりすることを考えたら、最上限のできる注意を払って行くと、その意義があるじゃあないかなと思う」「やっぱり海のおかげ

か、もしも私がポジティブなんだとしたら、目の前がいつも美しく考えてることが、もうすぐ大潮だなと雨が降るなか天気がどうだなんていって、考えてることが自然の方が多くて、あまり人間のことより自然界の中で生きてるから、だからそうしてるとか、感情とかイライラは結構自然に消えてしまうので、それは私をポジティブにさせてもらえるのかな」など、沖縄訪問や沖縄在住そのものが習慣や癒し効果と考えられる発言が認められた。

沖縄の観光事業従事者からは、「来年はできるって信じたいけど、ちょっとまだわからないしね」「あの時期ならコロナの怖さを予測できなかったのも、とにかく感染しない方がいいということですね」「お客様が来ないので先が読めない」という発言があった。緊急事態宣言後は、先行き不安に苛まれているのが露呈されている。細田・井上(2000)は、緊急事態下の人間特性について、最善策を選ぶ・情動をコントロールするのが困難・不確実性の高い行動は現れやすいと指摘している。コロナ渦においては、はたして最善策が何であるかについての情報が希薄であるという不満が述べられていることの根拠になるだろう。また、「一時期、芸能人の方とかが沖縄に来て非難されて、世間というか一般の方も気にしちゃった。SNSにあげて叩かれて、そんな雰囲気になって、そうでなければたぶん影響は少なかったと思います」と、注目率の高い芸能人への恨み節のような発言があった。黄・高橋・阿部(2018)が主張するように、自粛を求められる期間において、著名人が発生させたweb上での要因として公正な信念が道徳判断に影響を及ぼすと考えられる。設定された自粛基準以下の行動であっても、社会的影響力のある著名人の行動ゆえに反響の大きさに起因したと推察できる。

結 語

社会心理学の概念に「正常化の偏見」や「正常性バイアス」と呼ばれるキーワードがある。広瀬(1984)によると、正常化の偏見とは、異常な事態を告知する現象をふだんの日常的枠組みの中へ押し込めて、異常性を減殺してとらえようとする傾向と定義している。矢守(2006)は、そのような正常化の偏見が発生する前提として、まず、ふるまいの原因となるような認知や判断と称される心的状態が論理的にも時間的にも先行することを指して、「こころの前提」と述べ、専門家、自治体職員、メディア、一般の人々の順により適切

な評価をなしうると考える前提として「役割分担の前提」を提示している。数か月におよぶコロナ禍において、真の危険性の基準は変化していると言わざるを得ない。日常生活では感染予防と経済活動のバランスがとれた行動が求められる。まさか自分は感染しないだろうという楽観があっても、社会的連帯感を示す道具としてマスク着用や対人距離を意識していることを示すことがマナーであり規範になりつつある。コロナ禍に対する自己の見解はともかく同調圧力に適應するのが無難だということだろう。

同調圧力は集団における意思決定の際に、周辺の意見と同調させるように作用する無形の圧力のことである。つまり、周辺の総意に同調しないことに対して感じる無形の気まずさが同調圧力である。換言すると、社会集団で有利な立場を保持するためや、周辺ムードに影響されて冷静な判断や言動をあきらめる保身行動ともいえるだろう。同調圧力は、合意形成をする際に権力をもつものの顔色をうかがわざるを得ない組織風土や、周囲の意見と同調させるように作用させる集団特有の規範が影響していると考えられる。圧力に背けば不利益の受忍も予想されるため、自己の意思に背き同調行動をとるのだと推察される。同調圧力に屈し、寄ってたかって石を投げられることからの回避行動だともいえるだろう。

危惧すべきは過剰な攻撃行動や排斥行動だろう。安全第一というスローガンを金科玉条とした他者への非難や偽善的な安全信奉である。正しい科学的根拠を伴わないにも関わらず、風潮や規範に踊らされ正義感をふりかざす愚弄な言動は、メディアにも日常生活にも多々表れている。その視点からは、コロナ渦に沖縄訪問していた本研究の調査対象者は非難対象かもしれない。しかしながら、斉一性の原理を重んじるあまり感情的レベルからの差別行動に発展することを回避しなければならないのは、言うまでもないだろう。

前年まで恐れていたオーバーツーリズムの対応だが、皮肉にも閑散とした今年の沖縄のビーチからは安心だ。しかし、観光地としての価値が下降すれば回復に時間と経費がかかり、本研究で注目した中国人観光客らインバウンドの動向にせざるを得ないかもしれない。現地調査で那覇市国際通りを訪問した際、地元物産店経営者は、コロナ渦の影響ですでに80店舗がシャッターを下ろして休業を選択し、そのなかの40店舗が廃業を決定していると述べていた。はたして、コロナ渦後の沖縄にインバウンドを含む観光客の活気は戻るのだろうか。

首里城全焼から1年経過した2020年10月には、国内外から再建ため潤沢な寄付金が集

まり、2026年の完全再元をめざすとの政府発表がされている。観光資源が整い、一日でも早くコロナ禍が終息し活気ある沖縄に戻る日を待ちたい。

引用文献

青木俊明・荒砥真也・塩野政徳（2007）不利益想起型の同調圧力が作用する際の公共受容の構造：否定的圧力の場合 建設マネジメント研究論文集 14 巻.

星野郁美・後藤和彦（1964）幻影の時代 マスコミが製造する事実 ダニエル・J・ブーアスティン. 訳 東京創元社.

細田聡・井上枝一郎（2000）緊急事態での人間行動の特徴に関する一考察 労働科学 76 巻. 12 号.

広瀬弘忠（1984）生存のための災害学：自然・人間・文明 新曜社.

尹明憲（2005）中国人訪日旅行の動向と関門地域インバウンド観光誘致. 関門地域研究 14.

JTB 総合研究所（2020）新型コロナウイルス感染拡大による暮らしや心の変化および旅行再開に向けての意識調査.

<https://www.tourism.jp/tourism-database/survey/2020/05/covid19-tourism/>

国連世界観光機関（UNWTO）<https://unwto-ap.org/why/tourism-definition/>

Leon Festinger（1957）A Theory of Cognitive Dissonance, *Stanford University Press*.

前田勇編『現代観光学の展開—観光行動・文化観光・国際観光交流』学文社.

前田勇（1995）観光とサービスの心理学 —観光行動学序説— 学文社.

麦客 CRM（MikeCRM）<https://www.mikecrm.com/>

NHK（2020）世論調査内閣支持率調査 <http://www.nhk.or.jp/senkyo/shijiritsu/>

日本政府観光局（2020）JNTO 日本の観光統計データ <https://statistics.jnto.go.jp/graph/>

大淵憲一（2004）集団の社会心理学と公正 法と心理 3.

岡村薫・福重元嗣（2007）リピータ観光客育成に向けた観光プロモーション策; KISER Discussion Paper Series, No.10.

梁春香（1996）中国・日本間の国際観光交流過程に関する考察.

劉慧・杜国慶（2006）大都市における観光資源認知に関する空間的分析—東京を訪れる中国人観光者を事例として. 日本地理学会発表要旨集 69.

- 劉明 (2002) 中国人の訪日旅行増加のための提言. 総合観光研究 1.
- Shwartz, S. H. (1992) Universals in the content and structure of values: Theoretical advances and empirical tests in 20 countries. In M. P. Zanna(Ed.), *Advances in Experimental Social Psychology*. vol. 25. *New York: Academic Press*.
- 須藤廣 (2005) 中国におけるアウトバウンドツーリズムとしての日本観光. 関門地域研究 14.
- 鈴木勝 (2002) 中国における海外パッケージ・ツアーの現況と日中ツアー比較試論. 総合観光研究 1.
- 高橋優香・黄景逸・阿部恒之 (2018) 有名人のゴシップに対する社会的評価 —不寛容性・感情に対する性・年齢・居住地域の影響— 日本心理学会第 82 回大会.
- 脇本忍 (2014) 沖縄離島イメージについての心理学的研究 —島尻郡渡名喜村渡名喜島の視点から— 兵庫大学論集 19 号.
- 山本興治 (2005) 中国人訪日観光旅行分析—中国現地での旅行会社ヒアリング調査を中心に. 関門地域研究 14.
- 吉川茂 (2012) 大学生の観光同期と観光懸念に関する心理学的考察 阪南論集 人文・自然科学編 vol.47-No.2.
- 矢守克也 (2006) 再論—正常化の偏見 実験社会心理学研究 48.

